

大学医学部・医科大学^{*1}

尾 島 昭 次^{*2}

1. 学校数

戦後の医師不足への対応ならびに地域医療充実のための無医大県解消計画は、表 1¹⁾ に示されるように、1979年度の 4 私大新設に始まり、1981年度の琉球大学医学部設置をもって完結し、前々回の白書(1982年版)以降、その数に変動はない。設置別では国立が 43 校(含防衛医科大学校)、公立 8 校、私立 29 校である(表 2)。しかし次章に述べるように、この白書対象期間(1986~1990年)は、来るべき医師過剰時代に対処すべく、学校数を据えおき、一転して入学定員削減の時期となる。

2. 入学定員

表 1 に 1945年から 1990年にわたる入学定員の変遷を示す。定員増ならびに医学校の新設により、1982年に総定員 8,360 人のピークに到達し、3 年間平衡状態を保った。つまり入学定員増スタートの前年 1969年の 4,040 に比し、12年間で倍増したこととなる¹⁾。他方人口 10 万人あたり医師数は、厚生省の目標—1985年に 150 人—を 2 年早く突破、約 15 年で医師過剰論が台頭するにいたった。

厚生省は 1984 年 5 月に、将来の医師需給に関する検討委員会¹⁾ を発足させ、同委員会は「1995 年度を目途に医師の新規参入を 10% 程度削減する」という内容の中間報告を同年 11 月に発表した。それを受けて、国立大学医学部長会議の「学生定員に関する専門委員会」、全国医学部長病院長会議の「学生定員に関する委員会」、国立大学協会「医学教育に関する特別委員会」、公立大学協会・

私立医科大学協会・日本医師会など、関連機関における、「適正医師数—入学定員」に関する論議が沸騰するにいたったのである。国・公・私立医学校は、それぞれ異なる設置形態のため、統一見解は得られなかったが、おおかたの見解としては、次のようであったとみられる。

国立大：教育環境改善のために入学定員を若干減らすにやぶさかではないが、教官定員減は、それと逆行する。

公立大：定員が少なく、地域人口の急増するところでは、逆に定員増を希望した。

私立大：定員減はまず国立大学から開始すべきである。ただちに定員減をしないが、約 1 割の水増し入学をやめ、入学定員を厳守する。

以上の意向を反映した結果として、1985年度の愛媛大の 20 名減を皮切りに、翌年長崎大、徳島大の 20 名減が続ぎ、以下表 1, 2, にみられるように、まず国立大の定員減が先行した。1990 年現在、120 名は北海道大と京都大のみで、大多数は 100 名となった。従来 80 名の東京医科歯科大と岐阜大の 80 名に変更はないが、新設医科大学のうち、富山医科薬科、島根、香川、愛媛、高知、佐賀、大分の 7 校は、1990 年度より 95 名に減らした。公立大学には変動はみられない。私立大学では、国立大学の動きよりやや遅れて、1988 年に杏林大が 100→90、東海大 110→100、89 年に帝京大 120→100、近畿大 100→95、90 年に北里大、昭和、東京医大、慈恵医大、日大、川崎医大、久留米大がいずれも 120→110 と減らし、私立大も 120 が姿を消し 100 が 18 大学と多数を占めるにいたった。

以上の結果、本白書の対象期間中に、国立大学が 4,570→4,165 と 405 名、私立が 3,040→2,925 と 115 名、計 520 名減となり、目標の 6 割強が達成されたこととなる。

^{*1} School of Medicine, Medical College in Japan.
キーワード：医学部，医科大学，入学定員，教員数，学生数，教員空席率，学費

^{*2} OJIMA, Akitsugu 岐阜大学医学部病理学教室

表 1 設置主体別にみた医学校数および入学定員の推移^{1,2)}

区 分			1945	1950	'55	1960	'65	1970	'71	'72	'73	'74	'75	'76
大 学	国立	学 校 数	13	19	20	21	24	25	25	26	28	33	34	36
		入学定員	1,626	1,380	1,420	1,460	1,980	2,360	2,400	2,620	3,040	3,540	3,680	3,880
	公立	学 校 数	1	14	13	12	9	9	9	8	8	8	8	8
		入学定員	117	640	620	580	580	620	640	580	580	600	620	620
学	私立	学 校 数	4	13	13	13	13	16	18	25	26	28	28	28
		入学定員	565	880	780	800	1,000	1,400	1,680	2,400	2,580	2,780	2,820	2,920
計		学 校 数	18	46	46	46	46	50	52	59	62	69	70	72
		入学定員	2,308	2,900	2,820	2,840	3,560	4,380	4,720	5,600	6,200	6,920	7,120	7,420
医学専門 門学校			学 校 数	50	注：1. 1982年までは文献1), 83年～89年度は文献2), 90年度は新聞を参照。 2. 1974年度より防衛医科大学校, 1975年度より大阪大学医学部の専門 課程（3年次）での学士入学（編入20名）を含む。									
			入学定員	8,225										
合 計			学 校 数	68										
			入学定員	10,533										

区 分			'77	'78	'79	1980	'81～'84	'85	'86	'87	'88	'89	1990
大 学	国立	学 校 数	36	39	39	42	43	43	43	43	43	43	43
		入学定員	3,880	4,200	4,260	4,560	4,660	4,640	4,600	4,540	4,445	4,285	4,230
	公立	学 校 数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
		入学定員	660	660	660	660	660	660	660	660	660	660	660
学	私立	学 校 数	28	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
		入学定員	2,940	3,040	3,040	3,040	3,040	3,040	3,040	3,040	3,020	2,995	2,925
計		学 校 数	72	76	76	80	80	80	80	80	80	80	80
		入学定員	7,480	7,900	7,960	8,260	8,360	8,340	8,300	8,240	8,125	7,940	7,815

その他、学生にかかわる事項として、

1. 入学者選抜—女子入学生の増加
2. 医師国試—ガイドライン改訂や合格率など、

本白書の各該当部分を参照されたい。

3. 教 員

教員数は付属施設を除き、教育にもっとも関係の深い、基礎および臨床の専任教授・助教授・講師を、全国医学部長病院長会議発行の「カリキュラムの現状²⁾」に基づいて、国立・公立・私立に分け、1977～1989年度までを表3に示す。

1977年から1989年の12年間に教員数は2,847名、学生数は6,435名、いずれも増加したが、学生数/教員数は3.7から4年間3.8を算した後、85年からやや低くなり、現在3.3人の学生に教員1人と教育環境がわずかではあるが改善されている。

ちなみにこの関係は米国^{3,4)}ではどうであろうか。表4は1976～77から1988～89年の同比率を示す。米国ではこの比率は下り続けており、1987～88年度において、ついに教員数が学生数を上まわるにいたった。この比率の差は、スモールグループ授業にとって決定的な違いであるとともに、米国の方が教員・学生比率から、より充実した教育環境づくりに、継続的に努力していることがわかる。

次に教員の空席状況を、医育機関名簿⁵⁾により、〇〇学、つまり講座の専任教授・助教授を対象として調査、〇〇部、センター、付置研究所、分院などは含めなかった。その結果を前回白書³⁾ぶんとともに表5に示す。

1980、1985年に比し、各区分の分母が若干ずつ増加している。基礎臨床をあわせた教授ならびに助教授の空席率はそれぞれ1980年：2.6、28.8%、

表 2 大学医学部および医科大学

A. 国立大学	設 置 ・ 沿 革	A. 国立大学	設 置 ・ 沿 革
北海道大学医学部 (120)	大 8. 4. 北海道帝国大学医学部	福井医科大学 (100)	昭53. 10.
旭川医科大学 (100)←(120) '89	昭24. 5. 北海道大学医学部	山梨医科大学 (100)	昭53. 10.
弘前大学医学部 (100)←(120) '89	昭48. 9.	信州大学医学部 (100)	昭19. 3. 松本医学専門学校
東北大学医学部 (100)←(120) '89	昭19. 4. 県立青森医学専門学校	岐阜大学医学部 (80)	昭23. 2. 松本医科大学
	昭23. 2. 弘前医科大学		昭24. 5. 信州大学医学部
	昭26. 4. 弘前大学医学部		昭18. 12. 岐阜県立女子医学専門学校
	文化14. 藩医学校 明13. 宮城 医学校 明34. 4. 仙台医学専門 学校 大 4. 7. 東北帝国大学医 科大学 大8. 4. 東北帝国大学医 学部 昭24. 5. 東北大学医学部	浜松医科大学 (100)	昭22. 6. 岐阜県立医科大学
秋田大学医学部 (100)	昭45. 4.	名古屋大学医学部 (100)	昭25. 4. 岐阜県立大学医学 部 昭39. 4. 岐阜大学医学部
山形大学医学部 (100)←(120) '88	昭48. 9.		昭49. 6.
筑波大学医学専門学校 (100)	昭48. 10.		明 4. 仮医学校 大 9. 6. 愛知 医科大学 昭 6. 4. 名古屋医科 大学 昭14. 4. 名古屋帝国大学 医学部 昭24. 5. 名古屋大学医 学部
群馬大学医学部 (100)	昭18. 3. 前橋医学専門学校	三重大学医学部 (100)	昭18. 12. 三重県立医学専門学校
	昭23. 5. 前橋医科大学		昭23. 2. 三重県立医科大学
	昭24. 5. 群馬大学医学部		昭47. 5. 三重大学医学部
千葉大学医学部 (100)←(120) '87	明 9. 10. 公立千葉病院医教場	滋賀医科大学 (100)	昭49. 10.
	明20. 9. 第一高等学校校医学部	京都大学医学部 (120)	明32. 7. 京都帝国大学医科大学
	明27. 7. 第一高等学校校医学部		昭24. 5. 京都大学医学部
	明34. 4. 千葉医学専門学校	大阪大学医学部 (100+20) ↓ '90 (90+10)	明 2. 11. 大阪医学校(政府直轄)
	大12. 5. 千葉医科大学		明 3. 2. 大阪府医学校
	昭24. 5. 千葉大学医学部		明 4. 7. 大阪医学校(文部省)
東京大学医学部 (100)	安政 5. 種痘所 明 2. 12. 大学 東校 明10. 4. 東京医学校		明 6. 2. 大阪府立病院教授局
	明19. 3. 東京帝国大学医科大学		明13. 3. 府立大阪医学校
東京医科歯科大学 (80)	昭24. 5. 東京大学医学部		明21. 1. 大阪医学校 明 34. 6. 大阪府立医学校 明36. 10.
	昭 3. 10. 東京高等歯科医学校		大阪府立高等医学校 大 4. 10.
	昭19. 4. 東京医学歯学専門学校		府立大阪医科大学 昭 6. 4. 大 阪帝国大学医学部 昭24. 5. 大 阪大学医学部
新潟大学医学部 (100)←(120) '89	昭21. 8. 東京医科歯科大学		
	明43. 4. 新潟医学専門学校	神戸大学医学部 (100)←(120) '89	昭16. 1. 兵庫県立医学専門学校
	大11. 4. 新潟医科大学		昭21. 4. 兵庫県立医科大学
富山医科薬科大学 (95)←(100) '90	昭24. 5. 新潟大学医学部		昭26. 3. 県立神戸医科大学
	昭50. 10.		昭39. 4. 神戸大学医学部
金沢大学医学部 (100)←(120) '88	文久 2. 3. 種痘所 慶応 3. 6. 養生所 明 3. 2. 金沢医学館	鳥取大学医学部 (100)←(120) '87	昭20. 3. 米子医学専門学校
	明 8. 8. 石川県金沢病院医学所		昭23. 2. 米子医科大学
	明12. 11. 金沢医学校 明20. 8. 第四高等学校校医学部 明27. 7. 第四高等学校校医学部 明34. 4. 金沢医学専門学校 大12. 4. 金 沢医科大学 昭24. 5. 金沢大学 医学部	鳥根医科大学 (95)←(100) '90	昭24. 5. 鳥取大学医学部
		岡山大学医学部 (100)←(120) '89	昭50. 10.
			明 3. 4. 岡山藩医学校
			明 5. 1. 医学所 明13. 9. 岡 山県医学校 明21. 4. 第三高等

表 2 つづき

A. 国立大学		A. 国立大学	
設 置 ・ 沿 革	設 置 ・ 沿 革	設 置 ・ 沿 革	設 置 ・ 沿 革
中学校医学部 明29. 6. 第三高等学校医学部 明34. 4. 岡山医学専門学校 大11. 4. 岡山医科大学 昭24. 5. 岡山大学医学部 広島大学医学部 (100)←(120)'89 山口大学医学部 (100)←(120)'88 徳島大学医学部 (100)←(120)'86 香川医科大学 (95)←(100)'90 愛媛大学医学部 (95)←(100)'90 高知医科大学 (95)←(100) 九州大学医学部 (100)←(120)'89 佐賀医科大学 (95)→(100)'90	明29. 6. 第三高等学校医学部 明34. 4. 岡山医学専門学校 大11. 4. 岡山医科大学 昭24. 5. 岡山大学医学部 昭20. 3. 広島県立医学専門学校 昭23. 3. 広島県立医科大学 昭28. 8. 広島大学医学部 昭19. 4. 山口県立医学専門学校 昭22. 6. 山口県立医科大学 昭39. 4. 山口大学医学部 昭20. 4. 徳島医学専門学校 昭23. 2. 徳島医科大学 昭24. 5. 徳島大学医学部 昭53. 10. 昭48. 9. 昭51. 10. 明36. 3. 京都帝国大学福岡医科大学 明44. 4. 九州帝国大学医科大学 大 8. 2. 九州帝国大学医学部 昭24. 5. 九州大学医学部 昭51. 10.	長崎大学医学部 (100)←(120)'86 熊本大学医学部 (100)←(120)'88 大分医科大学 (95)←(100)'90 宮崎医科大学 (100) 鹿児島大学医学部 (100)←(120)'87 琉球大学医学部 (100)	安政 4. 医学伝習所 明 4. 11. 文部省長崎医学校 明20. 8. 第五高等学校医学部 明 27. 9. 第五高等学校医学部 大 12. 3. 長崎医科大学 昭24. 5. 長崎大学医学部 宝暦 6. 医学寮再春館 明4. 7. 県立医学校 明37. 1. 私立熊本医学専門学校 大10. 4. 熊本県立医学専門学校 大11. 5. 熊本県立医科大学 昭 4. 5. 熊本医科大学 昭24. 5. 熊本大学医学部 昭51. 10. 昭49. 6. 昭17. 県立鹿児島医学専門学校 昭24. 3. 県立鹿児島医科大学 昭30. 7. 鹿児島大学医学部 昭54. 10.
		入学定員数 計 4,155+10←4,540+20	
B. 公立大学		B. 公立大学	
設 置 ・ 沿 革	設 置 ・ 沿 革	設 置 ・ 沿 革	設 置 ・ 沿 革
札幌医科大学 (100) 福島県立医科大学 (80) 横浜市立大学医学部 (60) 名古屋市立大学医学部 (80) 京都府立医科大学 (100)	昭20. 4. 北海道立女子医学専門学校 昭25. 2. 札幌医科大学 昭19. 1. 福島県立女子医学専門学校 昭22. 6. 福島県立医科大学 昭19. 4. 横浜市立医学専門学校 昭24. 2. 横浜医科大学 昭27. 2. 横浜市立大学医学部 昭18. 4. 名古屋女子高等医学専門学校 昭22. 6. 名古屋女子医科大学 昭27. 2. 名古屋市立大学医学部 明 5. 11. 仮療養所 明15. 11. 医学校 明36. 6. 京都府立医学	大阪市立大学医学部 (80) 奈良県立医科大学 (100) 和歌山県立医科大学 (60)	専門学校 大10. 10. 京都府立医科大学 昭19. 2. 大阪市立医学専門学校 昭23. 4. 大阪市立医科大学 昭30. 2. 大阪市立大学医学部 昭20. 3. 奈良県立医学専門学校 昭23. 2. 奈良県立医科大学 昭20. 4. 和歌山県立医学専門学校 昭23. 2. 和歌山県立医科大学
		入学定員数 計 660	
C. 私立大学		C. 私立大学	
設 置 ・ 沿 革	設 置 ・ 沿 革	設 置 ・ 沿 革	設 置 ・ 沿 革
岩手医科大学 (80)	昭 3. 2. 岩手医学専門学校 昭22. 6. 岩手医科大学	自治医科大学 (100) 独協医科大学 (100)	昭47. 2. 昭47. 7.

表 2 つづき

C. 私立大学	設 置 ・ 沿 革	C. 私立大学	設 置 ・ 沿 革
埼玉医科大学 (100)	昭47. 2.	日本医科大学 (100)	明37. 4. 日本医学校 明45. 7. 日本医学専門学校 大15. 2. 日 本医科大学
北里大学医学部 (110)←(120) '90	昭45. 3.	聖マリアンナ医科大 学 (100)	昭46. 1. 東洋医科大学 昭46. 8. 聖マリアンナ医科大学 昭47. 3.
杏林大学医学部 (90)←(100) '88	昭45. 3.	金沢医科大学 (100)	昭46. 12.
慶応義塾大学医学部 (100)	大 5. 12. 慶応義塾大学医学科 大 9. 2. 慶応義塾大学医学部	愛知医科大学 (100)	昭46. 11. 名古屋保健衛生大学医 学部 昭59. 6. 藤田学園保健衛 生大学医学部
順天堂大学医学部 (90)	昭18. 12. 順天堂医学専門学校 昭21. 5. 順天堂医科大学 昭26. 3. 順天堂大学医学部	藤田学園保健衛生大 学医学部 (100)	昭 2. 2. 大阪高等医学専門学校 昭21. 3. 大阪医科大学 昭 3. 6. 大阪女子高等医学専門 学校 昭24. 3. 大阪女子医科大 学 昭29. 12. 関西医科大学 昭49. 1.
昭和大学医学部 (110)←(120) '90	昭 3. 4. 昭和医学専門学校 昭21. 4. 昭和医科大学 昭27. 2. 昭和大学医学部 昭46. 3.	大阪医科大学 (100)	
帝京大学医学部 (100)←(120) '89		関西医科大学 (100)	
東海大学医学部 (100)←(110) '88	昭49. 1.	近畿大学医学部 (95)←(100) '89	
東京医科大学 (110)←(120) '90	大 7. 4. 東京医学専門学校 昭22. 2. 東京医科大学	兵庫医科大学 (100)	昭46. 11.
東京慈恵会医科大学 (110)←(120)	明24. 9. 東京慈恵医院医学専門 学校 明41. 東京慈恵会医院医 学専門学校 大10. 10. 東京慈 恵会医科大学	川崎医科大学 (110)←(120) '90	昭45. 3.
東京女子医科大学 (100)	明33. 12. 東京女医学校 明45. 3. 東京女子医学専門学校 昭22. 6. 東京女子医科大学	産業医科大学 (100)	昭52. 12.
東邦大学医学部 (100)	大 4. 3. 帝国女子医学専門学校 昭 5. 12. 帝国女子医学薬学専門 学校 昭24. 2. 東邦大学医学 部	福岡大学医学部 (100)	昭47. 1.
日本大学医学部 (110)←(120) '90	大14. 4. 日本大学専門部医学科 昭17. 4. 日本大学医学部	久留米大学医学部 (110)←(120) '90	昭 3. 2. 九州医学専門学校 昭18. 2. 九州高等医学専門学校 昭21. 3. 久留米医科大学 昭25. 2. 久留米大学医学部
		入学定員数 計 2,925←3,040	
		総 計 7,740+10←8,240	

1. ()内は入学定員。(削減入学定員)←(前回,'85年の入学定員)
西歴

2. 設置・沿革は前回白書³⁾を,入学定員はそれに加え「医学教育カリキュラムの現状」²⁾を参照とした。

3. 表1の入学定員総数(1990年)7,815より65少ないのは,防衛医科大学校の定員65が含まれていないためである。

表 3 教員数と学生数²⁾

年 度	1977	1979	1983	1985	1987	1989
A. 教員数	7,756	8,347	9,452	9,870	10,320	10,603
B. 学生数	28,506	31,862	35,487	35,657	34,641	34,941
B/A	3.7	3.8	3.8	3.6	3.4	3.3

注 1. 教員数は付属施設を除く。

2. 学生数は専門課程4年間を対象とした。

3. 1989年度の学生数に名市大が含まれていない。仮に $80 \times 4 = 320$ 名を加えて計算しても

3.3 に変りはない。

表 4 米国医学校における教員数と学生数^{3,4)}

年 度	1976~77	78~79	80~81	82~83	84~85	85~86	86~87	87~88	88~89
A. 教員数	41,394	46,598	50,691	55,527	58,767	61,372	63,991	66,798	70,308
B. 学生数	57,276	62,754	65,497	66,886	67,090	66,604	66,142	65,742	65,150
B/A	1.4	1.3	1.3	1.2	1.1	1.1	1.0	1.0	0.9

注：教員数は常勤の教授，準教授，助教授，講師ならびにその他を含む。講師ならびにその他が前3者の合計の1割弱で，その他を含んでも大勢に影響はない。

表 5 医学校教員の欠員状況^{3,5)}

		基礎系		臨床系		計	
1980年 5月	教 授 助教授 (計)	2.6% 28.8	1,082 1,140	2.1 9.5	1,738 1,627	2.3 16.7	2,820 2,959
1985年 5月	教 授	国 立	4.9 26/638	3.5	25/745	3.7	51/1,381
		公 立	1.9 2/108	4.3	6/138	3.3	8/246
		私 立	2.2 10/451	1.6	12/744	1.8	22/1,195
		計	3.2 38/1,195	2.6	43/1,627	2.9	81/2,822
	助教授	国 立	28.0 179/639	12.7	96/756	19.7	275/1,395
		公 立	30.4 34/112	13.6	20/147	20.8	54/259
		私 立	29.4 126/428	10.6	82/777	17.3	208/1,205
		計	28.4 339/1,179	11.8	198/1,680	18.8	537/2,859
1989年 6月	教 授	国 立	5.3 35/652	3.5	28/806	4.3	63/1,458
		公 立	2.8 3/107	2.8	4/141	2.8	7/248
		私 立	4.1 19/467	2.3	19/816	3.0	38/1,283
		計	4.6 57/1,226	2.9	51/1,763	3.6	108/2,989
	助教授	国 立	28.3 185/652	18.0	143/805	22.5	328/1,457
		公 立	33.6 37/110	13.2	20/151	21.8	57/261
		私 立	28.1 129/459	12.2	100/815	17.9	229/1,274
		計	28.7 351/1,221	14.9	263/1,771	20.5	614/2,992

表 6 講座別教員の空席状況—基礎医学⁵⁾

区 分	教 授							助教授												教授+助教授					
	席数	1985			a)1989			席数	1985			b)1989			c)1989			a)+b)			a)+c)				
		空席	%	順位	空席	%	順位		空席	%	順位	空席	%	順位	空席	%	順位	空席	%	順位	空席	%	順位		
解剖学	180	7	3.9	4	6	3.3	7	176	56	31.8	4	53	30.1	4	16	9.1	4	59	16.6	5	22	6.2	5		
生理学	159	1	0.6	9	6	3.8	6	153	57	37.3	2	60	39.2	2	21	13.7	2	66	21.2	2	27	8.7	3		
生化学	128	3	2.3	7	7	5.5	3	126	28	22.2	7	28	22.2	6	8	6.3	8	35	13.8	6	15	5.9	6		
微生物学	98	6	6.1	2	2	2.0	9	94	25	26.6	6	14	14.9	9	5	5.3	9	16	8.3	9	7	3.6	9		
病理学	167	5	3.0	5	7	4.2	5	164	35	21.3	8	34	20.7	7~8	12	7.3	5	41	12.4	7	19	5.7	7		
薬理学	93	1	1.1	8	3	3.2	8	92	18	19.6	9	19	20.7	7~8	6	6.5	7	22	11.9	8	9	4.9	8		
寄生虫学	59	6	10.2	1	6	10.2	1	60	16	26.7	5	16	26.6	5	4	6.7	6	22	18.5	4	10	8.4	4		
衛生学	167	4	2.4	6	16	9.6	2	163	54	33.1	3	53	32.5	3	16	9.8	3	69	20.9	3	32	9.7	2		
法医学	79	4	5.1	3	4	5.1	4	78	37	47.4	1	40	51.3	1	15	19.2	1	44	28.0	1	19	12.1	1		
計・平均	1,130	37	3.3		57	5.0		1,106	326	29.5		317	28.7		103	9.3		374	16.7		160	7.2			

注 1. c): 助教授の席を講師で任用している場合を除外して集計。

2. 基礎系では、教授・助教授の定員は安定しているので、1989年の定員は1985年のそれを流用した。

3. 衛生学に公衆衛生学を含む。

表 7 講座別教員の空席状況—臨床医学 (1988~89)⁵⁾

区 分	教 授				助教授				教授+助教授			
	席数	空席	同%	順位	席数	空席	同%	順位	席数	空席	同%	順位
内科学	388	14	3.6	6	384	35	9.1	14	772	49	6.3	13
外科学	236	8	3.4	7	252	16	6.3	16	488	24	4.9	15
整形外科	93	2	2.2	10~11	102	18	17.6	9	195	20	10.3	8
産婦人科学	95	1	1.1	12~14	99	12	12.1	12	194	13	6.7	12
小児科学	93	1	1.1	12~14	97	8	8.2	15	190	9	4.7	16
眼科学	85	5	5.9	3	86	19	22.1	3~4	171	24	14.0	4
皮膚科学	82	4	4.9	4	81	15	18.5	7~8	163	19	11.7	6
泌尿器科学	85	2	2.4	8	86	8	9.3	13	171	10	5.8	14
神経精神科学	93	1	1.1	12~14	84	13	15.5	10	177	14	7.9	10
耳鼻咽喉科学	88	2	2.3	9	86	19	22.1	3~4	174	21	12.1	5
放射線医学	106	4	3.8	5	101	30	29.7	2	207	34	16.4	2
麻酔学	90	2	2.2	10~11	90	17	18.9	6	180	19	10.6	7
脳神経外科学	74	0	0	15~16	72	10	13.9	11	146	10	6.8	11
歯科・口腔外科学	53	4	7.5	2	49	20	40.8	1	102	24	23.5	1
臨床検査医学	54	0	0	15~16	54	10	18.5	7~8	108	10	9.3	9
形成外科学	22	2	9.1	1	24	5	20.8	5	46	7	15.2	3
計	1,737	52	3.0		1,747	255	146		2,484	307	12.4	

注 1: 内科学に老年医学, 分子病診療学, 内分泌・代謝学, 総合臨床医学, 地域医療学を含めた。

2: 外科学に整形および脳神経外科学以外の外科学, 救急医学, 移植学を含めた。

3: リハビリテーション医学は, 整形外科あるいは内科学に含めた。

4: 放射線医学に, 核医学を含めた。

5: 病院管理学, 臨床薬理学などかなり特殊かつ数の少ないものは割愛した。

表 8 米国医学校常勤有給教員の現員・空席一覧⁴⁾ (1988～1989年)

Department	Full-time Budgeted Positions Filled					No. (%) of Vacant Positions
	Professor	Associate Professor	Assistant Professor	Instructor and Other	Total	
Basic science						
Anatomy	751	731	586	125	2,193	101(4.4)
Biochemistry	809	451	426	107	1,793	82(4.4)
Microbiology	606	494	463	161	1,724	102(5.6)
Pathology	1,197	1,067	1,422	337	4,023	189(4.5)
Pharmacology	666	425	404	145	1,640	81(4.7)
Physiology	770	520	444	116	1,850	71(3.7)
Other	510	387	466	246	1,609	94(5.5)
Subtotal	5,309	4,075	4,211	1,237	14,832	720(4.6)
Clinical						
Anesthesiology	440	546	1,623	652	3,261	188(5.4)
Dermatology	141	116	161	36	454	33(6.8)
Family medicine	253	450	956	310	1,969	126(6.0)
Medicine	3,557	3,353	5,896	2,545	15,351	645(4.0)
Neurology	508	495	780	243	2,026	108(5.1)
Obstetrics-gynecology	627	553	1,057	488	2,725	204(7.0)
Ophthalmology	348	271	406	216	1,241	72(5.5)
Orthopedics	262	202	409	160	1,033	81(7.3)
Otolaryngology	212	166	293	122	793	35(4.2)
Pediatrics	1,389	1,675	2,655	991	6,710	400(5.6)
Physical medicine	142	173	396	267	978	37(3.6)
Psychiatry	1,213	1,282	2,554	1,191	6,240	268(4.1)
Public health and preventive medicine	248	231	388	168	1,035	36(3.4)
Radiology	1,086	1,060	1,886	629	4,661	232(4.7)
Surgery	1,524	1,179	1,997	624	5,324	330(5.8)
Urology	144	85	154	27	410	17(4.0)
Other	242	283	509	231	1,265	44(3.4)
Subtotal	12,336	12,120	22,120	8,900	55,476	2,856(4.9)
Total	17,645	16,195	26,331	10,137	70,308	3,576(4.8)

85年：3.2, 28.4%, 89年：4.6, 28.7%を示し、助教授の空席率は10年間まったく同様であるが、教授の空席率が、漸増している。前回白書において推測したところの新設医大急増による教員不足の後遺症がまだ解消せず、逆に若干拡大する傾向を示していることは問題といえよう。

助教授の空席が教授のそれに比し約6倍と多い点も前回と同様である。その高い要因は表5からもわかる通り基礎医学にあるので、基礎医学について、助教授が空席でも講師が在職の場合、空席

とせず集計し直して見たところ、

国立大学：185→81 (81/652=12.4%)

公立大学：37→5 (5/110= 4.5%)

私立大学：129→27 (27/459= 5.8%)

となり激減した。したがって、見かけ上の助教授空席率は高いが、講師として任用している場合が多く、実人数からの空席率は教授のその2～3倍で、臨床における助教授空席率より低くなる。このような任用形態の背景に次のような実情がみられる。助教授を講師で埋めている場合、その講

師は非医学系出身者が多いことである。また医学系出身でも、年齢、業績から今一步という場合もある。ここらあたりにも、教員の人材難と、医学部出身者の臨床志向性のたかまりが読みとれ、医師数は増加しても、この問題の緩和にまだまだ影響していないことを物語っている。

次に、教員の講座別空席状況を表6（基礎系—含社会医学系）および表7（臨床系）に示す。

まず基礎講座教授の空席では、寄生虫学と衛生学（含公衆衛生学）が約10%で突出している。寄生虫学は4年前もトップで改善されていない。後者は前回の2.4%が、今回9.6%と増加した。生理学、生化学も若干ふえたが、微生物学は逆に6.1%から2%に減じ、全体としての空席率は前回の3.3%から5.0%に上昇した。

助教授に関しては、2種の集計（b、c）を試みた。まずb）は4年前³⁾との比較のために、空席をそのまま算入した。その結果、トップは法医学（51.3%）で、第2が生理学（39.2%）、以下衛生学、解剖学、寄生虫学と、その順位は4年前とまったく変わっていない。6位以下では、微生物学が教授におけるのと同様に減少（26.6%→14.9%）し、若干順位が変動した。助教授の席を講師で埋めている場合を欠員とせず集計したc）においても、順位はb）とほとんど変わらなかった。教授+助教授の空席順位を4年前³⁾と比較すると、法医学（26.1→28.0%）、生理学（18.6→21.2%）、衛生学（17.6→20.9%）はいずれもわずかながら増加傾向を示し、いずれも上位を占め、改善されていない。

表6を包括的にみると、社会医学系>生理系>病理系の順に空席が多く、また講座間に空席率の開きがかなり大きいといえる。次に米国の状況（教授+準教授+助教授+講師など）⁴⁾を表8に示す。第1に基礎医学では3.7~4.4と講座間の開きがきわめて小さい。第2に1984~85年³⁾の基礎医学平均空席率5.5%が1988~89年には4.8%と縮小している（本邦では増加）。第3にその値は表6におけるa）+c）項（米国の統計対象に比較的近いと考えられる）の空席率7.2%より低い。以上3点が日本と異なっており、本邦の現状に比べてかなり望ましい状況であるといえよう。

次に臨床講座教員の空席状況を表7から要約し

表9 国立大学学費（単位：万円）

年度	検定料	入学科	授業料(年額)
1981	9	10	18
82	9	10	21.6
83	9	12	21.6
84	10	12	23.4 25.2*
85	11	12	25.2
86	11	15	25.2
87	11	15	30
88	12	18	30
89	12	18	33.6
1990	13	20.6	33.96

* 後期から、1987年以前は前回白書³⁾を参照した。

ておく。教授の空席は0~数%が多いが、形成外科学9.1%、歯科口腔外科学7.5%が高い。形成外科を表示しなかった4年前³⁾も歯科口腔外科がトップであった。教授の空席（3%）に比し、助教授のそれが14.6%と高いのも、前回と同じ傾向である。教授+助教授の空席率の高い順は、1）歯科・口腔外科23.5%、2）放射線医学16.4%、3）形成外科学15.2%、4）眼科学14.0%、5）耳鼻咽喉科学12.1%、6）皮膚科学11.7%で、前回の順位—口腔外科学・皮膚科学・耳鼻咽喉科学・麻酔学・放射線医学・眼科学と大同小異で、空席傾向は容易に是正できないようである。

前回は内科・外科・整外の順に欠員が少なかったが、今回は小児科・外科・泌尿器科・内科の順となり、若干の変動はあったものの、外科や内科の空席の少なさも持続している。この傾向を表8の米国と比較すると、米国では臨床においても各講座間の空席のパラツキが少なく、かつ1984~85の平均5.4%より縮小していることが注目される。わが国とこれら2点において逆である。臨床に区分されている公衆衛生・予防医学がもっとも低い点も本邦と逆で、注目に値する。

4. 学費

表9に1981~1990年度の国立大学の学費を示す。この10年間に、検定料は4割強、入学科は10割強、授業料は9割弱上昇し、それぞれ、13,000、206,000、339,600円となった。これらの上昇は、

表 10 公立大学医学部・医科大学学費

(単位：万円)

年 度	1980		1986		1989		1990	
大学名	入学金	授業料	入学金	授業料	入学金	授業料	入学金	授業料
札幌医大	8	18	12	25.2	18	30	18	33.6
福島医大	県内 8 県外 32	18	12 48	25.2	18 72	33.96	20.6 82.4	33.96
横浜市大	4	18	市内 6 市外 12	25.2	9 18	33.6	9 18	33.6
名古屋市大	8	18	市内 12 市外 21	25.2	18	30	20	33.6
京都府立医大	6	14.4	府内 12 府外 21	25.2	18 31.5	30	18 31.5	33.6
大阪市大	市内 4 市外 12	18	9 21	25.2	12 24	33.6	12 24	33.6
奈良医大	県内 5 県外 20	12	15 60	25.2	20 70	33.6	20 70	37.2
和歌山医大	県内 8 県外 32	18	15 60	25.2	18 65	33.6	18 65	33.96

注：1980、86年度は前回白書³⁾を参照。いずれも岐阜薬科大学教務 神野勝彦氏の調査による。

表 11 私立大学医学部・医科大学学費 (単位：万円)

	1980	1986
入学年度のみ納入 平均 (最低—最高)	508 (16~1,200)	568 (22~1,050)
毎年度納入 平均 (最低—最高)	261 (120~480)	365 (135~577)

物価や給与のそれを上まわっているが、私立医学学校のそれらに比べると著しく低く、上記の増額は、私学との格差を縮める政府の方針であるといわれている。

公立大学の学位を表10に示す。同一大学でも、設置府・県・市の内外出身者を区別している。内者に対しては入学金・授業料とも国立大学に歩調をあわせているが、外者の入学金は内者の2~4倍を課している。札幌医大と名市大のみは内外者に差をつけていない。

私立大学に関しては表11に、1980、1986年度の平均ならびに最低と最高を示す。これからみると、国立大学を値上げしても、私立大学との格差は拡大こそすれ縮小に役立っていない。

謝 辞

稿を終るにあたり、資料をご提供下さった東京女子医大耳鼻咽喉科学石井哲夫教授(全国医学部長・病院長会議・カリキュラム調査専門委員会委員長)ならびに岐阜薬大神野勝彦氏、また集計に協力下さった岐阜大第2病理学窪田瑛子の諸氏にお礼を申し上げます。

参考文献

- 1) 将来の医師需給に関する検討委員会(厚生省)：中間意見，1984年11月。
- 2) 全国医学部長病院長会議：医学教育カリキュラムの現状，昭和58，60，62，64年度版。
- 3) 尾島昭次，堀 原一：大学医学部・医科大学，医学教育白書1986年版('82~'86)，日本医学教育学会編，pp 8~10，篠原出版，東京，1986。
- 4) 牛場大蔵監修：アメリカの医学教育—卒前医学教育，JAMA (日本語版)，1：95，1990。
- 5) 医育機関名簿1989~1990，中外製薬~羊土社，東京，1989。